

## 園比屋武御嶽石門（そのひゃんうたきいしもん）

園比屋武御嶽石門は、琉球王国で最も重要な神聖な森のひとつへの入り口を守るため、1519年に第二尚氏の第三代王尚真によって建立されました。この森は古くから琉球の人々の守護神としての役割を担ってきました。最高位の神女である間得大君が管轄していたこの場所では、今日に至るまで重要な儀式が行われています。琉球の木造の御殿を模した繊細な彫刻が施されている園比屋武御嶽石門は、日本と中国から伝わった建築原理と意匠要素の類まれな融合を体現しています。これらの要素は改変されており、地域固有の建築材料で表現されています。主な構造部材と屋根には琉球サンゴ石灰岩、細部の大部分にはきめの細かい砂岩が使われています。扉は木製です。首里の他の歴史的建造物と同様、この門は第二次世界大戦の沖縄の戦いで損壊の被害を受けましたが、その後丁寧に修復されました。戦後、神聖な森は学校や道路の建設のために縮小され、かつての壮さを失いましたが、その門は今でも重要な信仰の対象です。